

令和5年度 第9回 豊田市猿投地域会議 会議録

開催日時	令和5年12月21日(木)	開会	閉会
		午後7時00分	午後8時10分
会場	猿投北交流館1階 多目的ホール		
出席者	地域会議委員：19人		
	会長：林 哲夫 副会長：近藤 宗行		
	委員：池田 利雄	磯貝 雅彦	梅村 寿
	大澤 正利	近藤 隆光	爾見 綾子
	田中 則夫	羽田 三枝子	林 昇司
	宮川 延隆	森 篤史	森 眞治
	山田 和孝		森田 裕子
欠席者	0名		
オブザーバー	豊田市議会議員：羽根田利明		
傍聴者	0名		
事務局	豊田市 安田副市長 企画政策部：都築副部长、企画課：丹羽副課長、都市計画課：西岡担当長 地域振興部：中川室長 猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、宮石担当長、岩村（麻）		
内容	1. 豊田市民の誓い（唱和） 2. 会長あいさつ 3. 「第9次豊田市総合計画」に関する答申について <ul style="list-style-type: none"> ・市長あいさつ ・答申書の授受 ・市長との意見交換会 4. わくわく事業現場訪問について 5. 情報共有・事務連絡 <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の地域会議委員継続について 		

■議事（要約）

2 会長あいさつ

3 「第9次豊田市総合計画」に関する答申

■副市長あいさつ

広沢川や籠川にいい印象をもっていて、やっぱりきれいだなということ、故郷の川だという印象があります。また、昨年猿投神社の参例にもお呼びいただいて、本当に厳かな格式の高い神社だと改めて感じさせていただいたところなんですけど、また今日はこちらに来てさせていただいて意見交換ができるのを楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。

■ 答申書の授受

林会長から安田副市長に答申書を手交

■ 記念撮影

■ 林会長から答申書の概要を説明

■ 意見交換

(委員)

- ・ 日頃は工事申請など市役所の対応が非常に迅速で助かっております。この場を借りてお礼申し上げます。ライドシェアはよくテレビ放送で伝えられていますが、この地域でもいい案だなという感じはしています。豊田市でもいろいろな案がでているとは思いますが、最近の検討状況が分かれば教えていただきたいです。

(副市長)

- ・ ライドシェアは国で検討されていて、だいたい方向性が固まってきました。タクシー会社では、今まで二種免許が必要で従業員でないといけないという話だったが、そうではなくてタクシー会社のコントロールの中でやっていくという形で、まずはスタートしていくと聞いています。例えば地域のタクシー会社とやりたいという方がうまく連携してやれば、それで1つの地域におけるライドシェアの形になるのかなと思っています。制度が変わっていくのは注目していく必要があります。タクシー会社もなく過疎地でNPOがやっているという事例はありますが、このあたりだとタクシー会社はあるので、今の形が1つの形かなと思っています。また今、市内の各地で小さなグループを作って車を共同で持って、乗りたい人と運転してもいいよという人が、会費を払ってその中で、地域の足を確保していくという、そのような交通をやり始めている地区が3・4箇所くらいあります。今年日本カーシェアリング協会と豊田市が協定を結んで車はそちらでお借りして、地域の方にお貸しするという仕組みがあるのですが、そういうところで車を確保して、まずは小さく始める。基幹バスのおいでんバスがあって、地域バスがあって、その先の本当に小回りの利く交通手段がなかなかない、そこを補完するようなやり方になるのかなと思っています。まだこれから検討して試行していく形です。また、タクシーを使っただき、それを自治区が支援するというやり方で、地域の足を確保していく方法もあります。本当に乗りたい方、運転してもいいという方がどういう風になっているか、そしてどこに向かっていくかということは、地域によって少し異なると思いますので、そのあたりいろいろと検討する中でいい方法を選んでいくのが一番いいかなと思います。こんな動きも各地が始まりますし、必要であればその辺りも含めてご説明に参ります。今、国が言っているライドシェアに合わせて、地域の足の確保が本当に話題になっていますので、ご紹介させていただきました。

(委員)

- ・ この答申とは全然違いますが、社会への参加が難しいひきこもりの方や、年金が少なくて貧困で困っている老人の方に対して、今、豊田市でどのような対策をしているのか、もしくはこれからどのようなことを進めていこうという考えがあるのか、お聞きします。

(副市長)

- ・ひきこもりと一言で言ってもいろいろなパターンがあります。例えば子供たちだと小中学校に通えないという形があり、不登校という形です。学校には行けるけど教室には入れないとか、学校自体にもぜんぜん行けないとか、さまざまなパターンがあります。学校には行けるけど、教室には入れないという方は、学校内で居場所を作るような形で進めていきます。また、学校には行けないけど、その他の施設には行けるという方には、パークとよたのような拠点を設けて、相談に乗ったり、来ていただけるような施設もありますし、そういう形で子どもたちにもいろいろ選択肢ができるような形になっています。また、それより少し上の若者については、若者サポートステーションで相談に乗る機能があります。そこに訪ねていただいて相談してもいいし、仮想空間みたいなところで、いろいろなやりとりをしながら対応していくなど、気軽に入ってきてもらえる機能を持っています。それを今後充実させていくという話があります。その上で、把握のしようがない部分もあるので、そこはできるだけどこかで把握する必要があると考えています。支所ごとに CSW や社会福祉協議会の方々が地域でアウトリーチ型のアプローチをするという機能も充実しつつありますので、それより上の年代の方をどうやって発掘するかということが大事かと思えます。できるだけ相談に乗りつつ、その方にあった社会性を確保していくことを進めようとしています。

(企画政策部)

- ・重層的支援体制として、社会に出るときに、いろいろな職種や団体が 1 つのチームになって、その方をさまざまな分野でサポートし、この方の社会参加を進めやすくする、そういう体制を今作って動かしていこうとしています。年齢層が上がってくると、どこに引きこもっている方がいるのかわからないというのが大変課題ではありますので、そういったところも合わせて、探すということと、探して出てきたときにいろいろな人が繋がって、出ていく先を探そうと、そういう動きはさせていただいているのが今の取組です。

(委員)

- ・若者サポートステーションは、ホームページに載っていますか。また、どこにあるのでしょうか。

(副市長)

- ・子ども若者部で委託する中で、その機能をどんどん拡張しようとしています。産業文化センターの中にあり、専門家に委託する形でやっています。国もこんなに引きこもっている人がいるということをやっとわかって、大変だとなった状況です。

(委員)

- ・2 つお聞きしたいことがあります。都市の人口規模が、全国的に減少している中で、どれくらいの人口規模で計画されるのかということと、それに付随して、子育て、働き手不足への対策は当然ですけれども、高齢者の方に住みやすいまちづくり、そういう関係の施策はどのような計画がありますか。それからもう 1 点は、夢物語かもしれませんが、

自分が猿投駅で車を停めて仕事に行くことがあるのですが、そういったときに、利便性が高くないので、今ある猿投駅から運動公園、御船のあたりまで少し鉄道を伸ばして、そこで駐車場や住居など、バスのハブ機能を持たせ、そこから、足助や小原、市内に行ける、そういうところができる、この地区はすごく住みやすくなるかなと思い、お聞きしました。

(副市長)

- ・日本全体の人口が減っていく中で、短期的には豊田市も頑張って人口を維持していくという話がありますが、長期を見て、今回第9次豊田市総合計画（以下「9総」という。）を考えたときに、人口は減っているけれども、そんなに極端な減り方はしないです。ただ、人口構成は当然変わっていきます。ご懸念のように、高齢化の話とか、子どもが少なくなるとか、労働力人口が減るとするのは、縮小の中で起きてくる話かと思えます。第8次豊田市総合計画（以下「8総」とする。）が、超高齢社会への適応というテーマを掲げて、最重要の課題としていますが、2010年から2025年にかけて、高齢者とりわけ、75歳以上の方が、その15年間に倍増するという、75歳以上の後期高齢者が急増することに対して、急にまちづくりの中で、また行政の中で、人口の大きな変化に対応するというのは、なかなか難しいです。ただそういう大きな変化、ひょっとしたら東京や埼玉など、高齢化が早いといわれているところよりも、豊田市のほうが早いということがあるかもしれません。そういう変化の中で超高齢社会に適応できるような社会をつくらうというのが8総のテーマです。組織として、高齢者に対する生きがいづくりなどさまざまな施策を行う生涯活躍部を作ったり、保健部では介護予防を行ったり、健康寿命を全うできるような仕組みを作ろうということで、ある程度そういうところは進んできています。そういう経営がある中で、高齢者も一定数増えてはいきますが、急激な変化はこれからそれほどなく、今度は労働力人口が減り、出生率が低下して、子どもが減ってくるということもあり、高齢者はもちろん今後もしっかり継続的にやっていますが、子どもにも少し視点を向け、国と同様に、豊田市においても、子どもに軸を置きたいと考えています。子どもだけの話ではなく、高齢者と子どもの世代間の交流も含めて、お互いが住みやすいようなまちになり、世代と世代を繋ぐというふうになっていけばいいと思います。超高齢社会の中にあり、高齢者についてしっかり考えていきますが、その流れはしっかりできており、子どもに少し軸足を置いたらどうか、そんな動きになっています。今回こういう大きな考えのもとで、施策に落とし込む考え方を、今議論をしている最中ですので、ぜひお考えを頂けたらということで、各地域会議を回らせていただいております。他の地域に行かせてもらおうと、いろいろなお話を伺う中で、やはり高齢者は高齢者、子どもは子どもと、行政は縦割りで対応しがちですが、実際はいろいろなやり取りの中で、そんな分けてやるのではなく、みんながいい形にできるのではというお話もいただいておりますので、そういうところも含めて、ご意見いただけたらと思っております。

- ・2点目についてですが、猿投駅に今車を置かれていかれているんですね。

(委員)

- ・はい。民間の駐車場は3台あるのですが、そこまで行く足が、自転車かバスになってしまふことが多いです。もう猿投駅周辺は、住んでいる方も見えますので、もう少し開発しやすい場所で運動公園も使用出来たらいいのかなと思いました。御船駅のあたりなら標高も高いですし、水没の可能性も低いので、開発しやすいのかなと思いました。

(副市長)

- ・今、猿投駅だとハブになりにくいという感じですかね。猿投駅から鉄道を伸ばすなど、我々も名鉄と交渉しているのですが、なかなかそういう形にはなっていないのが現状です。まずは今ある鉄道駅を使っただけのような形に持っていきたいのですが、地域要望もいただいていますので、また話が合ったということで、ご意見として承ってまいります。

(委員)

- ・答申書の記載事項に入れさせていただいたのですが、トータルライフサポートセンターみたいなものを、えきちか居住誘導エリアに作っていただきたいと思っています。まだ具体的なイメージはないのですが、都市構造のイメージの中で、7つの都市拠点に記載されており、猿投や浄水などに、生活支援の総合デパート的な館を併設させていただいて、9総のなかで述べられている幸福寿命を全うできるまち、それから子育て世代に選ばれるまち、このあたりを具現化できないかなと思います。私自身が考えている構成要素がありまして、先ほどから出ている高齢者に対して、健康づくりのスペース、医療機関、金融機関、さらに、子育て世代を支援する施設、子どもの学習を支援する施設、飲食スペースなどを入れていただいて、トータルのライフサポートができる館をつくっていただきたいです。今は四郷も病院、金融関係、飲食店がありますが、離れているので、先ほど言ったことをワンストップでできるような、世代を超えた交流ができる館的なものができたらいいと思います。全部はできないと思いますが、市が音頭をとって、やっていただけないかなと思っております。

(副市長)

- ・トータルライフサポートセンターと書いてあったのでどんなイメージなのかこちらからお聞きしようとしてたところでした。1つの建物の中に公共機能を集めるというイメージと分かりました。先ほどおっしゃっていた都市拠点にいろいろな機能を集約してできるだけそこに集めて、便利に使っていただくというものなんですけど、それをまた更にコンパクトに1つの建物なりに集約するという形でしょうか。拠点にいろいろな公共施設や機能を集約していこうとしていますので、また参考にさせていただきます。

(委員)

- ・さなげ台団地は南山高校に隣接しています。今盛んに壊して平地にしようとしておりますが、そのあとに養護施設が入るということで、あの土地を全部使うには少し広すぎるのではないかと思うのですが、もし半分使うとしたら、残り半分を何に使おうとしているのか、もし計画があれば、お聞きしたいなと思います。

(副市長)

- ・大部分が特別支援学校になりますので、そんなに大きな土地は残らないですが、若干残る中で市も、特別支援学校があるのでそれに合わせた機能を配置しようと今検討中で、まだ決定しておらず、ここで言えないのが申し訳ないのですが、なにか希望がありますか。

(委員)

- ・先ほどから話にてているようなものを入れられたらなと思います。

(副市長)

- ・地域の中には高齢者もいて子どももいて、障がい者もみえていろいろな方がいるので、その方々が交流できて住みやすいまちにできたらいいなと常々思っておりますので、検討したいと思います。

4 わくわく事業現場訪問

- ・「猿投町まちづくり協議会」、「さなげの里見守りの会」、「乙部町まちづくり委員会」、「舞木町まちづくり協議会」、「乙部ヶ丘わくわく事業推進委員会」の5団体の活動について、訪問した委員から報告（資料3～7頁）
→質疑等なし

5 情報共有・事務連絡

- ・懇親会の有無
- ・令和6年度の地域会議委員継続意向を推薦団体及び事務局に連絡するよう依頼
- ・豊田市山村バスツアーの案内

(次回の予定)

日時：令和6年3月21日（木） 午後7時から

場所：猿投北交流館1階 多目的ホール

※1月及び2月の会議は中止